

葛南教育事務所だより

千葉県教育庁葛南教育事務所
〒273-0012 船橋市浜町2 -5 -1
Tel 047-433-6017 Fax 047-433-3169



不祥事根絶研修会を終えて

【管理課】

管内不祥事ゼロの継続をめざし、管内臨時的任用講師の不祥事根絶研修会を12月22日(火)に浦安のWave101で開催いたしました。また、当日参加できなかった臨時的任用講師も25日(金)に葛南教育事務所において、3密を防いで開催いたしました。計6回の研修会に約750名の参加をいただきました。

また、学校司書や補助教員など市独自に配置されている教職員に対しては、各学校において不祥事根絶研修をお願いし、実施が進んでいるところです。

葛南教育事務所では、学校に携わる教職員すべての力で不祥事を根絶しようと考え、不祥事根絶研修会を行っています。過去の事例から、どういった事案がどういった不祥事につながるかを考え、セルフチェックシートも活用しました。

不祥事は自分の身の回りで起こらないものではなく、自分の身の回りでいつ起きるかわからないもの、だからこそ当事者意識を高め、切実感をもって、学校一丸となった連帯感で進めていくことが大切になっていきます。



(1) ヒヤリハット事案について

ハインリッヒの法則によると、1つの重大事案には、29の軽微な案件、300のヒヤリハット事案があるとされています。不祥事を根絶するには、このヒヤリハット事案をなくしていかなければなりません。以下の件についてどんなことが考えられるでしょう。

小学校担任が宿泊学習の参加承諾書を集めている途中に、クラスのA君が登校途中で大けがをして、保健室にいるとインターフォンで連絡が入ったため、急いで保健室へ向かった。

・この件について個人情報の観点に絞って考えてみます。校外学習の参加承諾書には、個人情報(既往症、保護者連絡先等)が載っていることが考えられます。保健室に向かう際、この参加承諾書を

- ①そのまま教卓に置いたままにした。
- ②クリップでとめて、教卓に置いた。
- ③クリップでとめるか封筒等に入れ、ひとまとめにして、教卓引き出しにしまった。

①~③の対応だけでも、重大事案につながるリスクは大きく変わります。

③の対応はヒヤリハット事案にすらならないかもしれません。②は書類がバラバラになることは考えにくいのですが、児童が覗くかもしれません。①は不可抗力(換気の際に風で飛ぶ、児童が教卓にぶつかるなど)によって書類がバラバラになることも考えられます。個人情報の紛失はもちろん、児童が友達に知られたくない個人情報が知られることになるかもしれません。軽微な案件や重大案件につながることも十分考えられます。若年者や臨時的任用講師も増えている中、職員の共通認識・理解で具体的に学校共通の取組を見直してみることも大切です。

(2) 働き方改革について

令和2年度は、「Withコロナ」で、学校運営も行われてきました。その中で思いきった行事の精選、部活動の見直し、カリキュラムマネジメントを生かした授業改善で、ライフワークバランスの充実が図られてきた学校も多数あったかと思います。令和3年1月に、1都3県に緊急事態宣言が出されたことを鑑みると、次年度の教育計画も「Withコロナ」で考えていかなければなりません。ピンチをチャンスに変えて働き方改革を推進していきましょう。

インクルーシブ教育システムとユニバーサルデザイン

【指導室 特別支援教育班】

文部科学省中央教育審議会初等中等教育分科会の「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」（平成24年7月23日付け）では、「インクルーシブ教育システム」について次のように定義されています。

○障害者の権利に関する条約第24条によれば、「インクルーシブ教育システム」とは、人間の多様性の尊重等の強化、障害者が精神的及び身体的な能力等を可能な最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加するとの目的の下、障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組み
そして、以下のようなことが必要とされています。

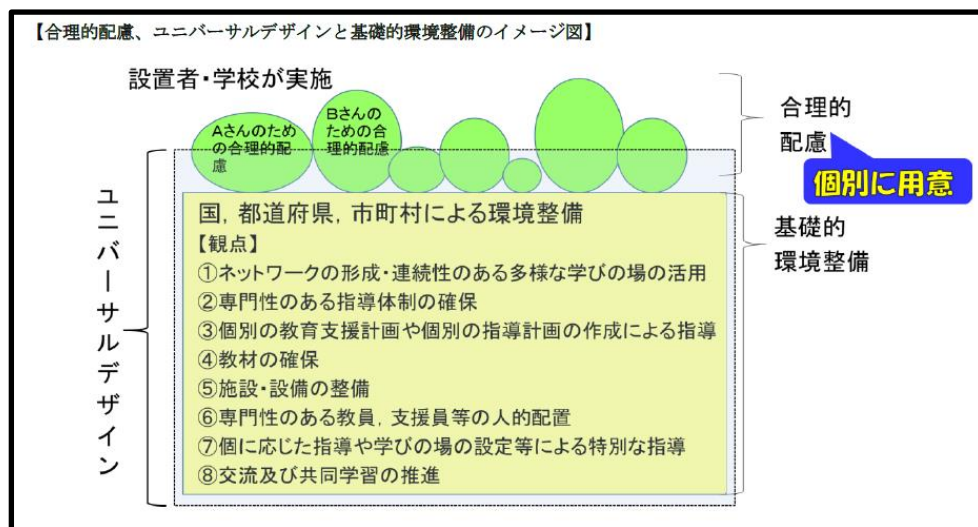
- ◆ 障害のある者が教育制度一般から排除されない
- ◆ 自己の生活する地域において初等中等教育の機会が与えられる
- ◆ 個人に必要な「合理的配慮」が提供されることが必要とされる

上記を踏まえ、各学校において一人一人の教育的ニーズを把握し、特別支援教育を推進していくことは、障害のある子どもにも、障害のあることが周囲に認識されていないものの学習上又は生活上の困難にある子どもにも、更には全ての子どもにとっても、良い効果をもたらすことができるものと考えられます。

【ユニバーサルデザインの視点】

右図は、個別に用意された合理的配慮が、実はユニバーサルデザインとして他の子ども達にも効果的であることを表しています。

[千葉県教育委員会『特別支援教育指導資料（令和2年度版）』P6より]



Point

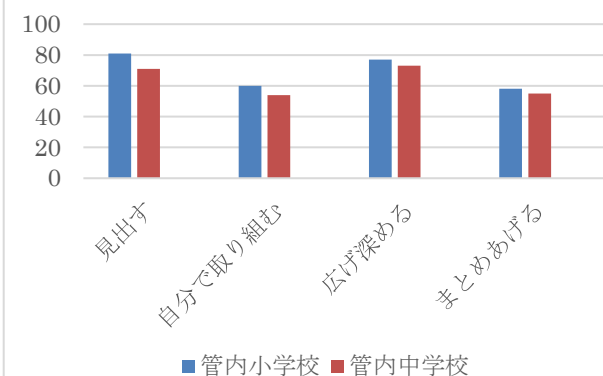
- ◆ どの子ども「わかる」「できる」を実感できる授業を考える
- ◆ 考えた授業の中で活動に対して難しさを感じる子どもがいないか考える
- ◆ 全ての子どもが活動に参加し、目標を達成できるよう手立てを考える
- ◆ 考えた手立てを周りの子どもにも有効な手立てとして共有する [ユニバーサルデザインの視点]

「令和2年度学力向上交流会アンケート」集計 速報!

【指導室】

学力向上交流会は、県の学力向上月間である11月を中心に「ちばっ子『学力向上』総合プラン」の一環として、開催しています。今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から集合開催ではなく、代替として、児童生徒の学力向上に資するために、「『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム」(以下「実践モデルプログラム」とする。)を活用した授業動画の視聴を通して授業改善の視点を整理し、教員の指導力向上を図るため、「令和2年度学力向上交流会アンケート」を実施しました。教育事務所で作成した授業動画を全小・中学校が視聴し、「実践モデルプログラム」と関連させたアンケートに答える内容とし、のべ243名から回答をいただきました。

(表1) すでに取り入れている項目

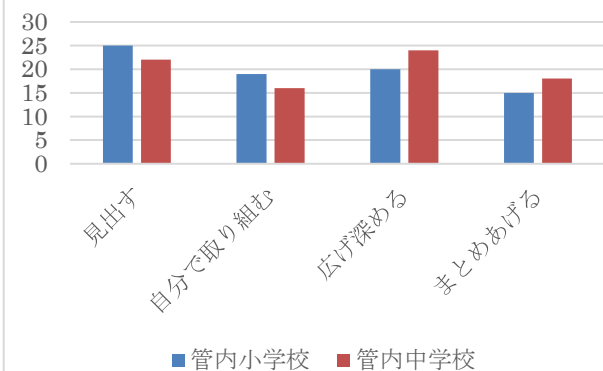


その中で、「実践モデルプログラム」の「見出す」「自分で取り組む」「広げ深める」「まとめあげる」の各項目の中で、すでに取り入れている項目についての回答(表1)から、「見出す」「広げ深める」ことについての割合が、管内小学校・中学校ともに高くなっていることが見られます。

また、動画視聴後、今後取り入れたい項目についての回答(表2)から、管内小学校では、「見出す」について、中学校については、「見出す」「広げ深める」の割合が高くなっています。回答方法の違いから単純に比較することは難しいのですが、今、取り組んでいることにさらに取り組んでいきたいと先生方が意識を高めている状況が見られます。



(表2) 取り入れたい項目



「実践モデルプログラム」は、毎時間その全てを行うことを推奨するものではありません。児童生徒の実態を学校全体で共有し、単元計画や授業計画に意図的・計画的に「見出す」「自分で取り組む」「広げ深める」「まとめあげる」を位置付け、全ての教職員で授業改善に取り組むことが大切です。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、自校の学習指導過程と照らし合わせながら、授業改善を行うための参考資料として今後も御活用ください。



その他、アンケートの詳細については、後日改めて結果分析の報告を行う予定です。来年度に向けて、さらなる学力向上に資する資料として御活用していただくことを願っています。

御協力いただき、ありがとうございました。



UNIFYは葛南5市の頭文字で、「一つになる」という意味です。